

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年3月)

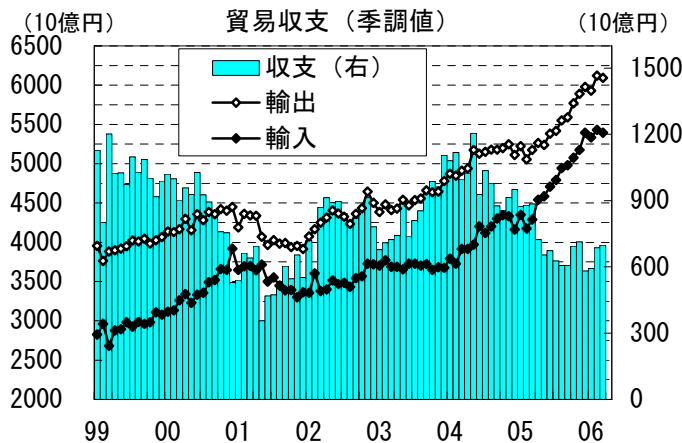
発表日2006年4月20日(木)

～1-3月期の外需寄与度は前期比+0.1%～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年3月	885	5176	4291	1111
4月	724	5263	4540	948
5月	654	5238	4584	285
6月	674	5384	4710	858
7月	627	5419	4792	862
8月	606	5551	4945	103
9月	607	5589	4981	949
10月	693	5769	5076	818
11月	713	5888	5175	594
12月	582	5978	5397	908
06年1月	592	5929	5337	-354
2月	686	6119	5433	950
3月	698	6093	5395	978

(出所: 貿易統計・財務省)

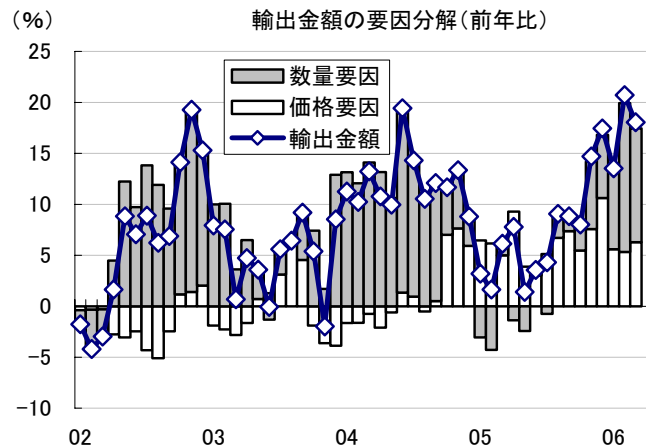
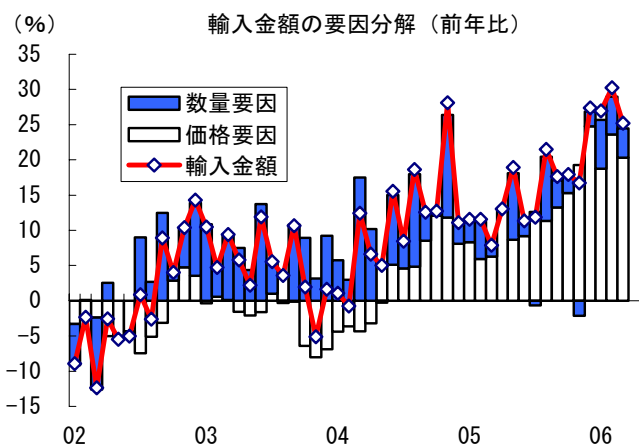
前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年 1月	3.2	6.5	▲ 3.1	▲ 5.3	▲ 14.7	▲ 1.5	11.6	8.3	3.0	0.5	3.5	4.9
2月	1.7	6.2	▲ 4.3	1.1	▲ 6.9	▲ 4.0	11.6	5.9	5.3	5.1	▲ 3.5	12.2
3月	6.1	5.0	1.1	3.3	▲ 9.5	0.8	7.9	6.3	1.5	▲ 1.1	▲ 5.1	4.7
4月	7.8	9.3	▲ 1.4	0.0	▲ 2.5	▲ 2.0	13.0	13.1	▲ 0.0	▲ 3.7	2.5	2.7
5月	1.4	3.9	▲ 2.4	2.0	▲ 8.0	▲ 5.0	18.9	8.7	9.4	7.0	3.5	10.9
6月	3.6	3.0	0.5	2.4	▲ 8.9	▲ 0.6	11.4	9.2	2.0	0.9	▲ 2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 3.1	▲ 4.5	11.9	12.6	▲ 0.6	7.5	▲ 4.8	▲ 1.2
8月	9.1	6.7	2.2	3.1	▲ 2.1	1.3	21.5	11.4	9.1	9.2	6.6	12.5
9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲ 3.3	▲ 2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲ 1.7	▲ 1.4	17.9	15.3	2.3	▲ 13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲ 0.7	4.3	16.7	19.3	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲ 1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲ 1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲ 1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.2	23.6	5.4	6.9	5.6	4.0
3月	18.1	6.3	11.2	8.1	5.7	12.0	25.2	20.3	4.1	▲ 7.3	0.5	8.0

○ 貿易黒字額は前年を下回るものの、輸出は堅調

3月の貿易収支は9,781億円(原数値)、前年比▲11.9%となり、事前の市場コンセンサス(7,173億円、レンジ: 5,300億円～1兆810億円)を上回った。内外需要の拡大から輸出数量、輸入数量ともに増加傾向を辿っている。ただし、原油価格の高騰が続いていることから輸入金額(前年比+25.2%)が輸出金額(同+18.1%)を上回る伸びとなっており、貿易黒字額は前年を下回る状況が続いている。足元でも産油国の情勢不安もあって原油価格が上昇していることを考えれば、貿易黒字の減少傾向はしばらく続く可能性が高い。

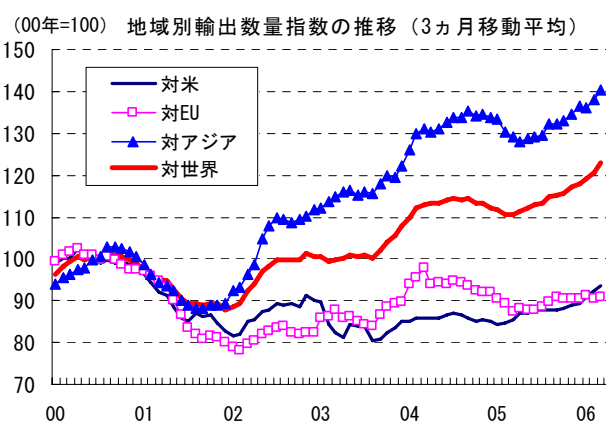
なお、05年度の貿易黒字額は7兆8,992億円(前年比▲30.3%)と4年ぶりに減少した。輸出額は自動車や鉄鋼等の増加により、過去最高額の68兆3,002億円(前年比+10.7%)となった。一方、輸入額も原油価格の高騰により過去最高を更新し、60兆4,010億円(同+19.9%)と増加したため、貿易黒字額は大幅に減少した。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



○ 米国向け、アジア向け共に輸出は好調を維持

地域別に輸出数量をみると、米国向け(同+8.0%←前月同+8.5%)、アジア向け(同+12.0%←前月同+15.9%)、欧州向け(同+5.7%←前月同+1.6%)の主要地域すべてで増加した。アジア向けは2月が中国の旧正月要因で高い伸びとなったことの反動によりプラス幅が縮小したが、それでも高い伸びを維持している。米国も引き続き自動車輸出が好調に推移し、欧州向けは船舶の一時的な増加もあって伸びが高まったと考えられるが増加基調は続いているとみられる。財別にみれば、自動車関連輸出や半導体等電子部品などのIT関連財の輸出が引き続き堅調である。



○ 1-3月期のGDPベース外需寄与度は前期比+0.1%

GDPベースの実質輸出入を3月の貿易統計までの結果を用いて試算すると、1-3月期の外需寄与度は0.1%ポイントとなった。外需の寄与度が小幅のプラスにとどまることや、内需も個人消費を中心に伸びが鈍化する公算が大きいことを勘案すれば、1-3月期のGDP成長率は前期から減速することは避けられないだろう。もっとも、輸出は海外需要の拡大が続いていることを背景に4-6半期連続で増加する見込みであり、堅調な推移が持続している。外需寄与度が前期から伸びが鈍化するの輸入が増加に転じることが大きく、その輸入の増加は国内景気の回復を映じてのものである。したがって、1-3月期の外需寄与度の伸び鈍化は海外需要と国内需要がバランスよく増加していることの結果とも言えることから、ネガティブに捉える必要はないと考える。

○ 06年後半以降は輸出の増加ペースが鈍る可能性もあるが、減速は小幅にとどまる見込み

先行きについても、米国、アジアを中心として世界経済は底堅く推移すると予想され、先行指標であるOECD景気先行指数が改善傾向を辿っていることなどから判断すれば、当面、輸出は堅調に推移すると考えられる。また、実質実効為替レートが1985年以来の円安水準となっていることも、輸出の下支え要因として働こう。06年半ば以降は、米国経済の減速によって輸出の増加ペースが鈍る可能性もあるが、その米国経済の減速は小幅にとどまる見込みであり、輸出が大幅に落ち込むことは回避できると考えられる。